

しんてんじしょうかい
新展示紹介

ツキノワグマ

2 階の山地のコーナーにはツキノワグマ、ニホンザル、ニホンカモシカが初夏の林の中を親子で歩いている小さなジオラマがあります。今回は、ツキノワグマを紹介します。

● ツキノワグマの生活

ツキノワグマは東アジアなどに分布し、日本では本州、四国などに見られます。富山県では山地に広く生息し、主に草や木の実を食べ、普通は単独で生活しています。木の実が不作の時には、山麓の集落のカキの実を食べ

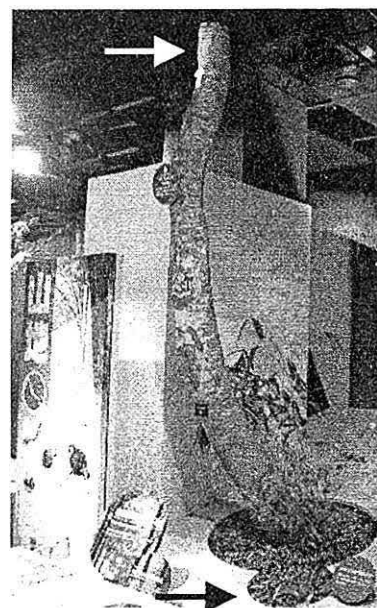


草むらを歩くツキノワグマの親子

に出没することがあります。富山の山地の大部分はブナやミズナラなどの広葉樹林からなりますが、冬は多くの木の葉が落葉し雪でおおわれるためエサがとりにくくなり、クマは木の洞や岩の隙間で冬眠します。メスは冬眠中に2頭の子を産み、子グマはエサが豊富な春に成長し、1年半ほど母熊といっしょにすごします。春に冬眠穴からでてきたときは、草木が芽吹き、クマは豊富なエサにありつけます。夏は葉が生い茂るため、やわらかい草が少なくなり、秋はブナやミズナラの木の実がなり、冬眠に備えてたくさん食べ脂肪を蓄えます。

● フィールドサインを見よう

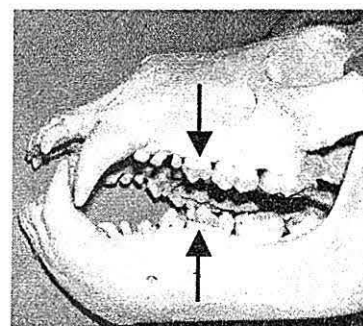
山では、クマが付けた爪あとやフン、エサを食べた痕跡がみられることがあります。大きなスギ株の横にあるウワミズザクラの木には、秋に実を食べるため上ったときの爪あとが残っています。根元には大きなクマのフンがあります。引き出しには、クマが食べたドングリとクリの殻もあります。クマはドングリやクリの実を口の中に入れて、上手に皮をむくようです。その他、交通事故死したクマの胃に入っていたツリフネソウ、オニグルミの殻、アリが展示



ウワミズザクラ：上の方にクマの爪あとが残る（白矢印）。下にはクマのフンがある（黒矢印）。

● 骨を見よう

クマは食肉目というグループに属します。このグループには、裂肉歯という歯があります。上あごと下あごの臼歯が肉を切り裂きやすい形になったものです。クマは雑食性のため、口の奥の方の臼歯はエサをすりつぶすのに適した丸みを帯びた形になっています。鋭い爪の中にある指の先の骨も爪と同じ形です。引き出しの



裂肉歯（れつにくし）

頭骨や手足の指の骨をみてください。

（南部久男）